

【生薬名】牛蒡子 *ARCTII FRUCTUS*

【起源植物】ゴボウ *Arctium lappa*



【科名】キク科Compositae

【別名】悪実、鼠粘草そねんそう

【薬用部分】成熟果実

【主成分】脂肪油、リグナン誘導体

【薬性】気味は辛苦寒、帰経は肺胃に属す

【効能】●疏散風熱、祛痰止咳、清熱解毒

●はれもの、咽痛、浮腫の利尿、慢性の皮膚疾患

●風熱による病態に使う

●1日5～10gを煎服、種子の粉末を1日8g、分3内服

●おできの口を開けるのに果実を1粒(煎液を盃1杯)飲むと1個口があくといわれている

●催乳、乳腺炎

●根(生でも乾燥品でもよい)の煎液は肉の中毒に効がある

●能く風熱を散じ熱毒を解する作用があるので、傷風発熱、咳嗽麻疹を治すのに用いている

●根はアクが強く苦みも多いので催吐剤に用いる

【出典】●牛蒡子 辛、能く瘡毒を消し、癰疹、風熱咽疼逐う可し(薬性歌)

●療咽痺腫痛。(一本堂薬選)

【備考】●牛蒡子の作用は薄荷に似てよく同時に使う。牛蒡子は清熱解毒、薄荷は発汗解表の力が強い

【処方例】●柴胡清肝湯、消風散、銀翹散、驅風解毒湯